



## 平成29年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成28年7月28日

上場会社名 株式会社ブルボン

上場取引所 東

コード番号 2208 URL <http://www.bourbon.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 康

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 財務管理部長 (氏名) 山崎 幸治 TEL 0257-23-2333

四半期報告書提出予定日 平成28年8月9日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成29年3月期第1四半期の連結業績（平成28年4月1日～平成28年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第1四半期	26,437	5.0	1,149	57.8	769	△5.9	852	55.9
28年3月期第1四半期	25,185	3.5	728	△11.4	817	3.2	547	21.4

(注) 包括利益 29年3月期第1四半期 1,301百万円 (37.6%) 28年3月期第1四半期 945百万円 (38.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第1四半期	35.50	—
28年3月期第1四半期	22.55	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年3月期第1四半期	64,086	37,809	59.0	1,573.78
28年3月期	67,792	37,562	55.4	1,563.50

(参考) 自己資本 29年3月期第1四半期 37,809百万円 28年3月期 37,562百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	8.00	—	9.00	17.00
29年3月期	—	—	—	—	—
29年3月期(予想)	—	8.00	—	9.00	17.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成29年3月期の連結業績予想（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	50,000	0.8	850	12.9	900	27.8	950	114.9	39.54
通期	112,000	2.2	4,600	5.3	4,700	13.2	3,500	34.3	145.68

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 3「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 (1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年3月期1Q	27,700,000株	28年3月期	27,700,000株
② 期末自己株式数	29年3月期1Q	3,675,217株	28年3月期	3,675,149株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年3月期1Q	24,024,825株	28年3月期1Q	24,262,629株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続を実施中でありませぬ。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	3
(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
(2) 追加情報 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善や、マイナス金利政策、消費増税の再延期などにより、継続した景気の持ち直しが期待された一方で、海外の政情不安などから円高の進行や株安等により、輸出企業を中心に今まで好調に推移してきた企業収益の改善傾向が鈍化するとともに、中国をはじめとした新興国経済の不透明感が強まる状況で推移いたしました。

菓子・飲料・食品業界は、高付加価値・高価格帯商品への需要が一部にあるものの、実質所得の伸び悩みや先行きの不安から、家計の節約志向に対応して再び低価格化の動きも見られました。

このような中、当社グループは一貫して、食品製造企業として安全・安心・安定および健康を基とした品質保証第一主義に徹し、実質価値の高い商品と消費者ニーズにお応えしたサービスの提供など、顧客満足度の向上に向けた活動を推進してまいりました。具体的には、女性の活躍推進や、単身・シニア世帯の増加などによるニーズの変化、価格重視と付加価値重視の二極化などの選択的な消費志向への対応により、消費者が求める価値の実現に機敏かつ柔軟に取り組み、きめ細かい店頭フォロー活動や地域のニーズに合わせた企画提案型の営業活動、品揃えの強化と付加価値を高めた魅力のある商品開発を通して、お客様の満足につながる活動を推進してまいりました。

その結果、ロングセラー商品やファミリーサイズ商品、板チョコレート商品が好調に推移したことから、ビスケット品目、チョコレート品目、スナック品目などが伸張し、売上高は前年同期を上回りました。

利益面では、売上高の伸張とコスト削減、経費の効果的使用に取り組んだことなどにより、営業利益は前年同期を上回りました。また、為替の影響などにより経常利益は前年同期を下回りましたが、投資有価証券の売却益により親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期を上回りました。

#### 営業品目別の概況

菓子の合計売上高は25,222百万円(対前年同期比105.1%)となりました。

菓子では、ビスケット品目を中心として、豆菓子、キャンデー、デザート、米菓、スナック、チョコレートなどの品目を展開しています。

初夏にかけての天候不順の影響を受けて、デザート品目の需要が伸びなかったものの、季節に合わせた抹茶フェア、パインフェア、夏塩フェアを展開したことにより、「アルフォートFS」などビスケット品目のファミリーサイズ商品が大きく伸張しました。さらに、「ルマンド」などの袋入りビスケットや箱入りビスケットのロングセラー商品が、継続して好調な推移となりました。

また、ソーダ味やジンジャーエール味などの「フェットチーネグミ」シリーズ、凍らせても滑らかな食感が特徴のデザート「果実の入った贅沢ソルベ」、スパイシーな味わいと新食感の「揚げ柿種」を新たに発売したことや、さらに、プロ野球の両リーグ7球団とタイアップした「プチポテト」シリーズの展開やチョコレート商品を中心とした冷やしておいしい夏の食べ方提案などに好評をいただきました。加えて、発汗の季節に塩分やミネラルを手軽に補給できる「ミネラル塩飴」、わさびでさわやかな辛さに仕上げた「チーズおかし本わさび味」、塩味を効かせたホワイトチョコレートの「アルフォートミニチョコレート塩バナラ」など夏向けの味わい商品も好評をいただきました。

全体では、ビスケット品目、チョコレート品目、スナック品目などが伸張したことから、前年同期を上回りました。

飲料・食品・その他の合計売上高は1,215百万円(対前年同期比102.5%)となりました。

飲料・食品では、健康志向の高まりを背景として、濃厚でまろやかなココナッツミルク飲料「おいしいココナッツミルク」を発売し、大変好評をいただきました。

また、“包んで”“型を抜いて”などのアレンジができるシート状のマルチスタイルスイーツ「スライス生チョコレート」に大きな注目をいただくとともに、地震災害をきっかけとした防災意識の高まりから、缶入りの保存商品に関心をいただきました。

機能性食品は、「カラダみらい」シリーズの機能性表示食品を、全国のドラッグストアで先行販売したほか、栄養調整食品「スローバー」シリーズや、シニアにも飲みやすい栄養補給ジュレ「彩果のしずく」シリーズの展開強化を行いました。

全体では、競争激化の状況下で飲料品目が伸び悩んだものの、食品品目が好調に推移したことから前年同期を上回りました。

さらに、長年培ってきた菓子製造の技術を活かし、ロングセラー商品「ルマンド」を用いてアイスクリーム事業に新規参入するための準備や広報活動を進めました。

その他では、通信販売事業は、企画商品の展開や魅力的な品揃えの充実により、お客様の利便性と満足度の向上を図り、顧客の拡大とリピーターの増加に取り組みました。

自動販売機事業は、多様な商品を取り扱うプチモールの設置環境の選択による効率性の向上に取り組んだほか、展開推進による台数の増加に伴って伸張しました。

また、酒類販売事業は、クラフトビールへの関心が継続するなか、受託生産や輸出が好調に推移したことから前年同期を上回りました。

以上の営業活動により業績の向上に努めてまいりました結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は26,437百万円（対前年同期比105.0%）、営業利益は1,149百万円（対前年同期比157.8%）、経常利益は769百万円（対前年同期比94.1%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は852百万円（対前年同期比155.9%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

総資産は64,086百万円となり、対前連結会計年度末比3,706百万円の減少となりました。これは主に、季節変動による受取手形及び売掛金の減少があったことによるものです。

負債は26,276百万円となり、対前連結会計年度末比3,953百万円の減少となりました。これは主に、季節変動による支払手形及び買掛金の減少と、法人税等の支払および賞与の支給などがあったことによるものです。

純資産は37,809百万円となり、対前連結会計年度末比246百万円の増加となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上および為替換算調整勘定の増加があったことと、子会社株式の追加取得による資本剰余金の減少があったことによるものです。

(連結キャッシュ・フローの状況に関する説明)

営業活動によるキャッシュ・フローは599百万円の収入（前年同期223百万円の支出）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益1,315百万円があったことと、法人税等の支払1,037百万円があったことによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは224百万円の支出（前年同期1,995百万円の支出）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出1,171百万円があったことと、投資有価証券の売却による収入605百万円および貸付金の回収による収入483百万円があったことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは1,206百万円の支出（前年同期359百万円の支出）となりました。これは主に、連結範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出838百万円および配当金の支払210百万円があったことによるものです。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物の残高は、前第1四半期連結会計期間末に比べ3,144百万円増加し、13,728百万円となりました。また、前連結会計年度末に比べ867百万円の減少となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成28年4月27日の「平成28年3月期 決算短信」で公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

（平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用）

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を当第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この変更による当第1四半期連結累計期間の連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

(2) 追加情報

（繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用）

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	14,459	13,599
受取手形及び売掛金	12,797	9,458
有価証券	136	128
商品及び製品	3,475	3,727
仕掛品	468	442
原材料及び貯蔵品	2,727	2,871
その他	1,456	870
貸倒引当金	△21	△20
流動資産合計	35,499	31,078
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	10,466	10,477
機械装置及び運搬具（純額）	7,847	8,042
その他（純額）	7,466	7,979
有形固定資産合計	25,779	26,499
無形固定資産		
のれん	1,548	1,520
その他	438	418
無形固定資産合計	1,987	1,938
投資その他の資産		
その他	4,526	4,570
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	4,526	4,570
固定資産合計	32,293	33,007
資産合計	67,792	64,086

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,224	9,162
短期借入金	1,720	1,720
未払法人税等	1,105	256
賞与引当金	1,054	463
返品引当金	45	40
資産除去債務	8	9
その他	8,911	7,503
流動負債合計	23,069	19,156
固定負債		
長期借入金	129	79
役員退職慰労引当金	230	235
退職給付に係る負債	5,856	5,856
資産除去債務	2	—
負ののれん	23	22
その他	917	926
固定負債合計	7,160	7,119
負債合計	30,229	26,276
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,036	1,036
資本剰余金	7,628	6,790
利益剰余金	30,806	31,443
自己株式	△940	△940
株主資本合計	38,531	38,329
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	278	171
為替換算調整勘定	△762	△244
退職給付に係る調整累計額	△484	△446
その他の包括利益累計額合計	△968	△519
純資産合計	37,562	37,809
負債純資産合計	67,792	64,086

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（第1四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第1四半期連結累計期間 （自平成27年4月1日 至平成27年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自平成28年4月1日 至平成28年6月30日）
売上高	25,185	26,437
売上原価	14,820	15,471
売上総利益	10,365	10,966
販売費及び一般管理費	9,636	9,816
営業利益	728	1,149
営業外収益		
受取利息	3	1
受取配当金	32	26
負ののれん償却額	0	0
為替差益	34	—
その他	32	22
営業外収益合計	103	50
営業外費用		
支払利息	6	2
減価償却費	3	1
為替差損	—	424
その他	4	3
営業外費用合計	14	431
経常利益	817	769
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	65	602
特別利益合計	65	602
特別損失		
固定資産処分損	1	17
減損損失	1	28
投資有価証券評価損	13	3
その他	—	7
特別損失合計	15	56
税金等調整前四半期純利益	867	1,315
法人税、住民税及び事業税	36	207
法人税等調整額	283	254
法人税等合計	320	462
四半期純利益	547	852
親会社株主に帰属する四半期純利益	547	852



(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
四半期純利益	547	852
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	377	△106
為替換算調整勘定	△3	517
退職給付に係る調整額	25	37
その他の包括利益合計	398	448
四半期包括利益	945	1,301
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	945	1,301
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	867	1,315
減価償却費	828	811
のれん償却額	28	28
受取利息及び受取配当金	△35	△27
負ののれん償却額	△0	△0
支払利息	6	2
為替差損益(△は益)	△28	340
投資有価証券売却損益(△は益)	△65	△602
固定資産処分損益(△は益)	1	17
減損損失	1	28
投資有価証券評価損益(△は益)	13	3
売上債権の増減額(△は増加)	3,480	3,322
たな卸資産の増減額(△は増加)	△730	△378
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,095	△1,050
賞与引当金の増減額(△は減少)	△581	△590
その他	△1,755	△1,609
小計	935	1,609
利息及び配当金の受取額	34	29
利息の支払額	△6	△2
法人税等の支払額	△1,187	△1,037
営業活動によるキャッシュ・フロー	△223	599
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
貸付金の回収による収入	0	483
有形固定資産の取得による支出	△2,175	△1,171
投資有価証券の取得による支出	△53	△134
投資有価証券の売却による収入	248	605
その他	△16	△7
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,995	△224
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	—	△838
長期借入金の返済による支出	△50	△50
リース債務の返済による支出	△107	△108
配当金の支払額	△200	△210
その他	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△359	△1,206
現金及び現金同等物に係る換算差額	△7	△35
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,585	△867
現金及び現金同等物の期首残高	13,170	14,596
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,584	13,728

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。